

環境省廃棄物処理等科学研究費(K1938)研究成果報告会  
2008年7月2日 於 国立環境研究所 東京事務所

## 再生製品の環境安全管理に関する現状と課題 及び研究プロジェクトの概要紹介

(独)国立環境研究所  
循環型社会・廃棄物研究センター  
大迫政浩

### 研究背景 再生資源の環境安全性

企業モラル欠如による一部事件

フェロシルト問題  
鉄鋼スラグ汚染問題  
エコ偽装発覚問題

再生資源に対する社会  
の信頼失墜

一層循環利用が進まない  
悪循環に陥りつつある

製鋼スラグからのアルカリ水発生など



週間プレイボーイ 2007年2月12日号記事

一律的に過剰な基準適用→合理的な判断基準が必要

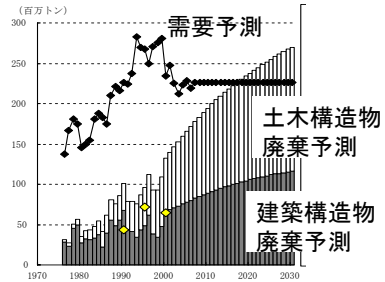
## 建設系再生資源の需給バランスには、化学物質 リスク管理との両立(バランス)がカギ!

- 循環型社会の形成にとって、**化学物質リスク管理との両立**は大変重要な課題
- 特に本研究で焦点をあてる**建設系の再生資源**の発生は避けられない一方で、将来、需給が**アンバランス**になる可能性が高く、適切な環境安全品質レベルを担保した循環システムを再構築する必要に迫られている。

主な再生資源(副産物・廃棄物・発生土等)の  
発生量と再資源化率

	発生量	再資源化率(%)	
コンクリート塊*	3200 万トン	97.5	H17
アスコン塊*	2600 万トン	98.7	H17
鉄鋼スラグ**	3700 万トン	98.8	H16
非鉄スラグ***	550 万トン	98.4	H17
石炭灰#	1070 万トン	96	H17
建設発生土*	19500 万m <sup>3</sup>	30##	H17
一廃熔融スラグ###	52 万トン	66	H16

\*H17建設副産物実態調査 \*\*鉄鋼スラグ統計年報 \*\*\*日本鉱業協会  
#石炭エネルギーセンターHP ##利用確定受入地除く ###日本産業機械工業会



建設系廃棄量の将来予測 3

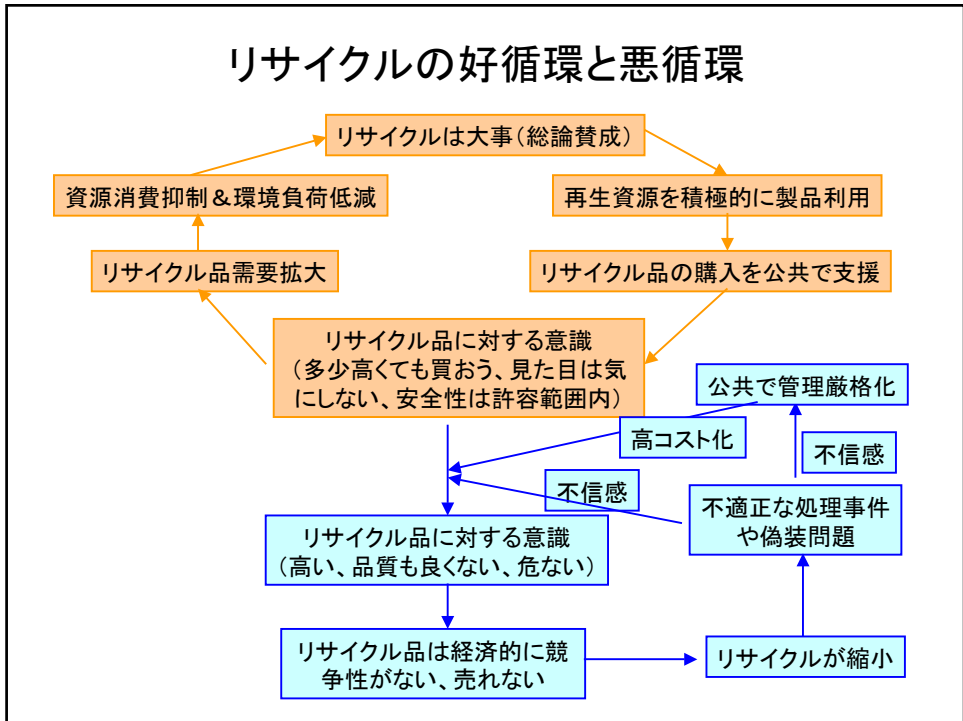
橋本征二 廃棄物処理等科 研究費「耐久財」研究成果

## 環境負荷低減とリサイクル促進のジレンマ

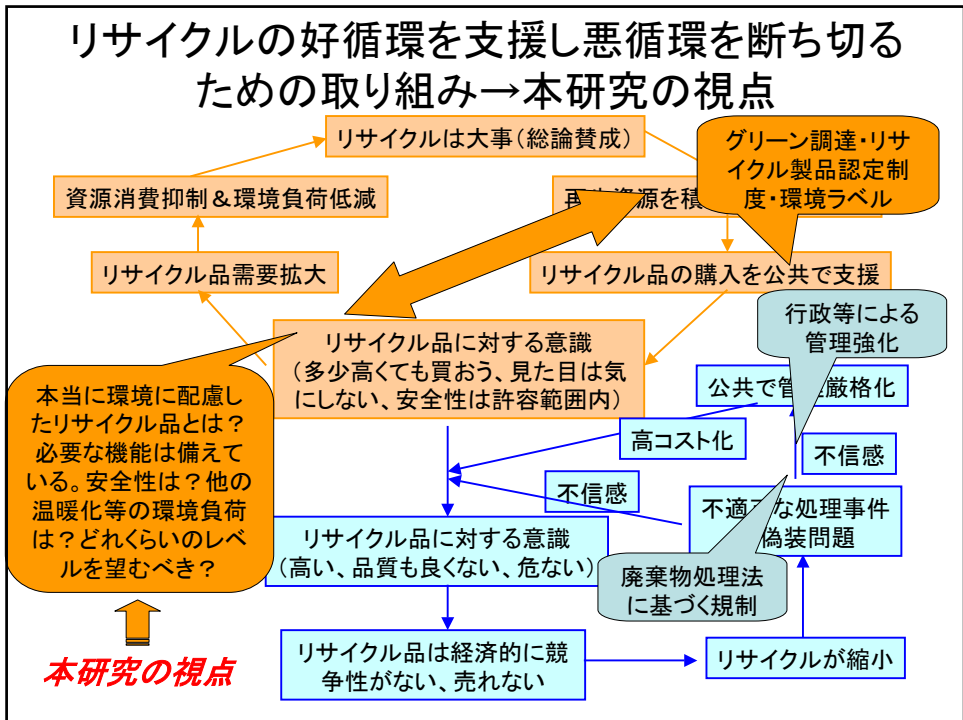


両者をどのようにバランスさせていくか!?

# リサイクルの好循環と悪循環



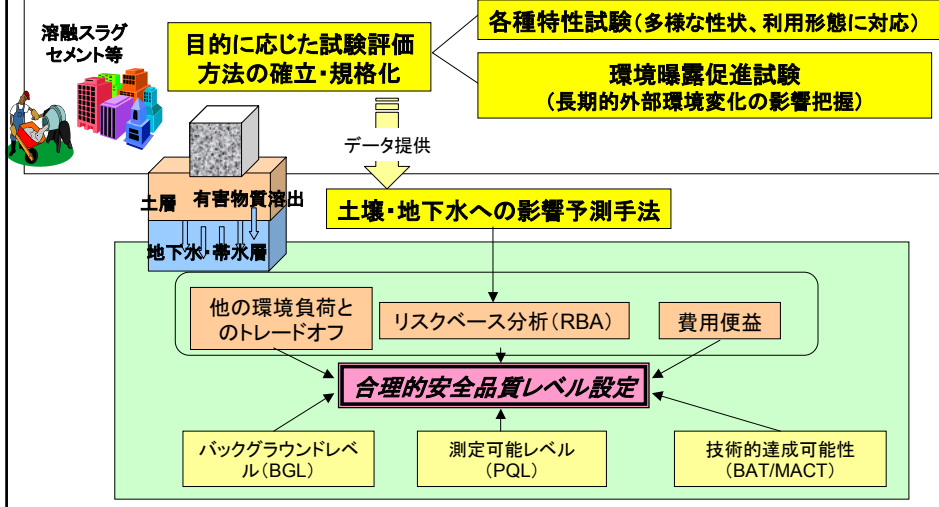
# リサイクルの好循環を支援し悪循環を断ち切るための取り組み→本研究の視点



再生製品に対する環境安全評価手法のシステム規格化に基づく安全品質レベルの合理的設定手法に関する研究

量的に多い建設資材系の再生製品を対象に、土壌・地下水への溶出リスクに焦点

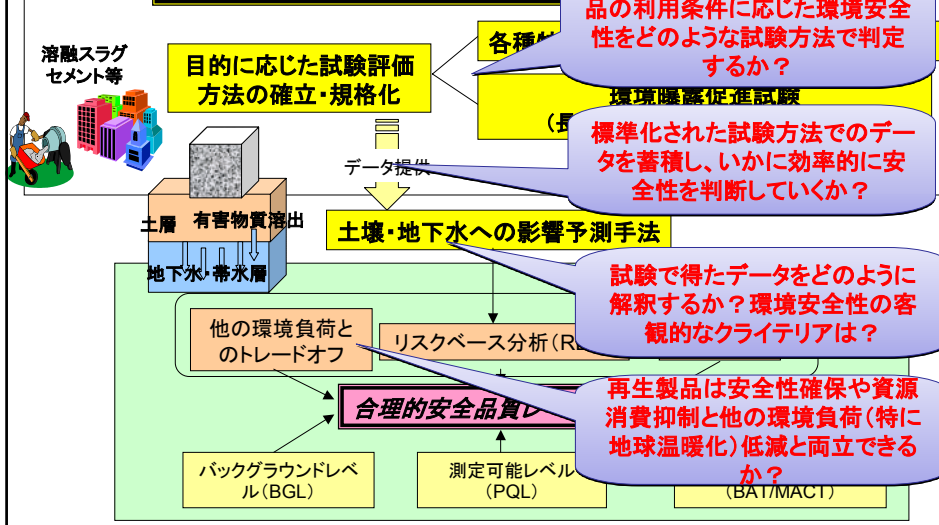
再生製品の環境安全評価方法の体系的システム規格化



再生製品に対する環境安全評価手法のシステム規格化に基づく安全品質レベルの合理的設定手法に関する研究

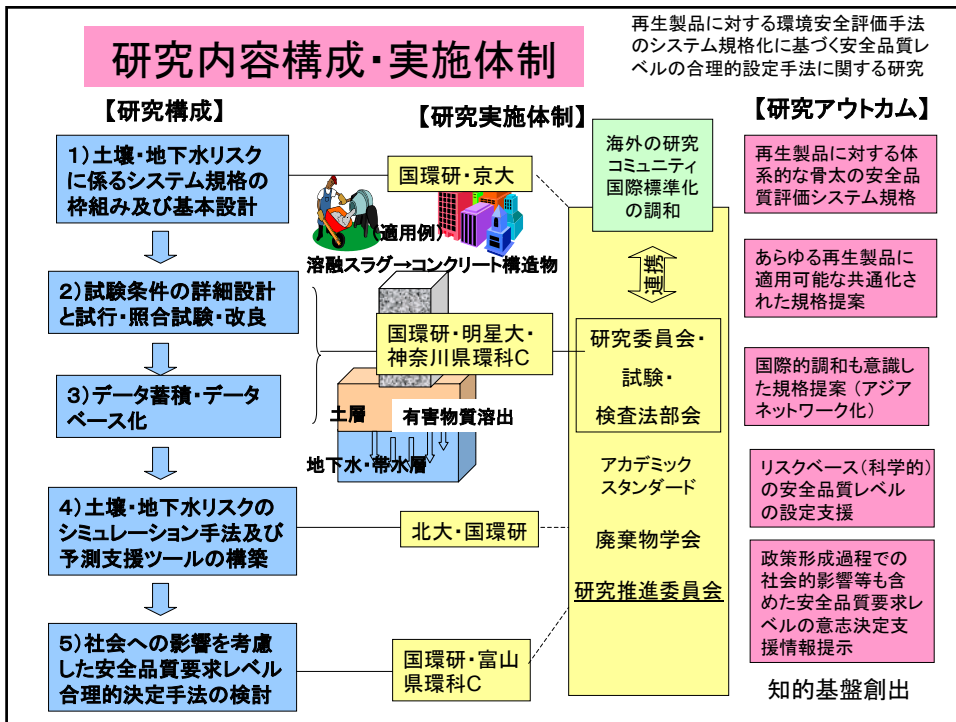
量的に多い建設資材系の再生製品を対象に、土壌・地下水への溶出リスクに焦点

再生製品の環境安全評価方法の体系的システム規格化



# 研究内容構成・実施体制

再生製品に対する環境安全評価手法のシステム規格化に基づく安全品質レベルの合理的設定手法に関する研究



## 本日の報告内容（プログラム）

- 1) 最近の動向とプロジェクト研究の概要 (国環研 大迫)
- 2) 再生製品の環境安全性試験の廃棄物学会規格化 (国環研 肴倉)
- 3) 認定製品提供サンプルの分析結果 (明星大 宮脇、神奈川県環科セ 坂本)
- 4) 評価モデルによる環境安全性の評価 (国環研 肴倉・遠藤、北大 東條)
- 5) 環境負荷評価 (LCI評価) 簡易ツールの開発 (富山県環境科学セ 佐伯)
- 6) 認定制度による実績調査結果 (エクス都市研 山口)
- 7) 今後の展開 (全員での議論)